

11.11.5  
1917 用

11.11.29  
用

稼ぐに追つく貧乏なしと云ふ話がある。  
それなのに、どうして俺達はこんなに貧乏ばかりしてゐるのだらう。朝から晩まで汗水たらして稼いでも、かつ／＼三度の飯が食へるか食へぬかだけの事じやないか。  
稼いでも詰らぬからつい情ける。情ければ食へなくなるからまた稼ぐ……これではいつまでたつても同じ事だ。  
どうかして、もう少し楽に暮せる工風はあるまいか。

或者は労働組合の必要を唱へ、又或者は社会主義の効能を説く。人様々の意見はあるが、歸する所は皆一つだ。それは資本家と戦ふ事だ。仲間同志一緒になつて、俺達の生血を吸ふ悪魔のやうな資本家と戦ふ事だ。戦つて勝つ事だ、さうして俺達の世界を作る事だ。  
俺達の世界……そこには勿論俺達の頭を抑へる者は一人もない。氣の向いた時に氣の向いた仕事をし、厭になつたらいつでも休むことが出来る。それでも今日の社會のやうに政治家だの資本家だのと云ふやうな殺潰し共が一人も居ないから誰でも十分に贅澤をすることが出来る。働いただけの富が一厘一毫の無駄もなく残らず自分の懐にはいるからだ、世界の富が残らず俺達の物になるからだ。

併し俺達はまだそれだけで十分に満足する事は出来ない。俺達は今まであらゆる形の權力に依つて奪はれてゐた俺達の「自由」を其の持主の手に取り返さなければならぬ——實を云ふと、それが何よりも一番大切な事なのだ。若し世の中に個人の自由を尊重しない社会主義や、パンのために「自由」を賣る労働組合があれば、俺達は卒先して之に反対しなければならぬ。さうしてほんとうの〇〇を成就しなければならぬ。  
萬國の労働者團結せよ！  
萬國の労働者團結せよ！

萬國の労働者團結せよ！